

学校としてどうカリキュラムを開発するか？ 「生徒の気づきと学び」を最大化するPJ 第28回（2020/11/4）

対話の内容

社会環境変化を見据え、多くの学校で生徒にどのような力を育むべきか、検討がされています。特に、「学びの探究化」「コンピテンシー育成」等の議論は、当たり前になるようになってきました。

では、描いた学びを具体化し、実現するために、どのようにカリキュラムを開発していけばよいのでしょうか。

「誰の、何のための、何をゴールとしたカリキュラム開発なのか？」
「どんな要素があれば、良いカリキュラム開発と言えるのか？」
「そもそもカリキュラム開発って、もっと出てきてよい言葉では？」

上記のような問いをもとに、気づきの多い対話が行われました。

今回のキーワード

どんな生徒の変容を目指すカリキュラムか？

そのカリキュラムは、何を目的にした教育活動なのか。目的は、生徒の成長すなわち学習後の変容を引き出すこと。どのような変容を目指すか、明確にすることが重要。

→ 教員の「まずはやってみる」マインドが大切

検討は重要だが、やってみないと分からないことも多い。やりながら生徒の変容を捉え、積み上げる。生徒の良い変化を組織知にする。

生徒評価だけでなく、カリキュラム自体の評価を

生徒の到達度やアウトプットの評価も重要だが、そのカリキュラム自体が良いものかどうか、評価の仕方を考えるべきである。

- 話題提供 本PJメンバー 立命館宇治中学校・高等学校 酒井 淳平 先生 -

- ・育てたい生徒像をすり合わせるところが起点。本校は「意欲に溢れ、自ら学び行動できる生徒」だった。生徒をお客様から生産者へと捉え直すことが必要だった。
- ・バカロレアには「コア科目」がある。自校のどの科目がコアで、他教科・他科目との繋がりをどう考えるか。本校はコア探究Ⅰ,Ⅱ,Ⅲをおいた。
- ・定期的に振り返り、生徒ではなくカリキュラム自体を評価する。そのためにも、生徒の良い変化はどんどん捉え、積み上げていくことが大事。
- ・「生徒の個人差」と「教員のマインドセット」はどこまでも検討事項として残る。だからこそ、思い×教材開発力・文章力×仲間で、まずはやってみるマインドが重要。

- 先生の声 -

- ・学校のビジョン、指導目標、育てたい生徒像が明確なことが、良いカリキュラムになるスタート地点であることを、改めて確認した。(岡山)
- ・学習指導要領を目標やGoalと考えるとおかしくなる。ミニマムスタンダードと考えていきたい。(東京)
- ・学校目標から一教員の指導への落とし込み方は、もっと議論されるべき。カリキュラムの具体化が、意外と苦手な人が多いのではないか。(福井)
- ・どのような「ものの見方」の変容を期待するのか。生徒の考え方が変わった瞬間に立ち会った経験はみなあるはず。そこにヒントがあると感じた(京都)

「学校としてどうカリキュラムを構築するか？」



Your
Link to
the World

酒井 淳平

立命館宇治中学校・高等学校
(高3学年主任・研究主任)

junpei@ujc.ritsumei.ac.jp

R
RITSUMEIKAN

自己紹介

酒井淳平（さかいじゅんぺい）
立命館宇治中高 高3学年主任・研究主任

（略歴など）

1997年4月～1999年3月 京都食品衛生専門学校 非常勤講師
（小学校からつまずいた生徒たちに高校の単位として数学Ⅰを教える）

1999年4月～2008年3月 立命館中学校・高等学校 教諭
（9年間ずっと担任、中1～中3、中1～高3）

2008年4月～現在 立命館宇治中学校・高等学校 教諭
（2008年～2013年3月 初代キャリア教育部長）

2013年度～2015年度 文部科学省 研究指定 責任者
「高等学校普通科におけるキャリア教育の実践に関する調査研究」（全国5校）

2018年度 文部科学省・研究開発指定校（探究）研究主任+高1主任
（2019年度～文部科学省WWL指定）

- ・ 科研費研究協力者
- ・ 啓林館、新編教科書編集協力者
- ・ CDA(キャリアカウンセラー)
- ・ 文科省系の仕事（各種委員など）

今日の話題提供のベース

①日本教育新聞記事（事前送付資料）

②学びの場.com記事（2つ）

<https://www.manabinoba.com/tsurezure/019326.html>

→なぜ探究なのか？（大事なものはHOWでなくWHY）

<https://www.manabinoba.com/tsurezure/019386.html>

→なぜ探究に取り組むのか？～立命館宇治の場合～

立命館宇治中高について

- IB認定校、SGH指定
- 6人に1人は帰国生
- 研究開発学校→WWL指定校
- 陸上部、野球部などスポーツ
- 内部進学生徒も多い
(受験にしばられない) ← **メリット??**

多様な生徒が
世界水準で活躍



コア探究実施までの流れ(ここ数年)

1994年度 学校法人立命館と合併

→学校大改革、先進的な取組多数

①2013年度 CSL (キャリア教育授業) 開始

(文科省研究指定を受けての取り組み)

⇒生徒の成長+多くの学校に広がるという予想外の成果あり!



②2017年1月 カリキュラム委員会スタート

(若手~中堅教員がチームとなって次の学校作りを考える)

⇒似たような問題意識! コアの必要性が共通認識になる!

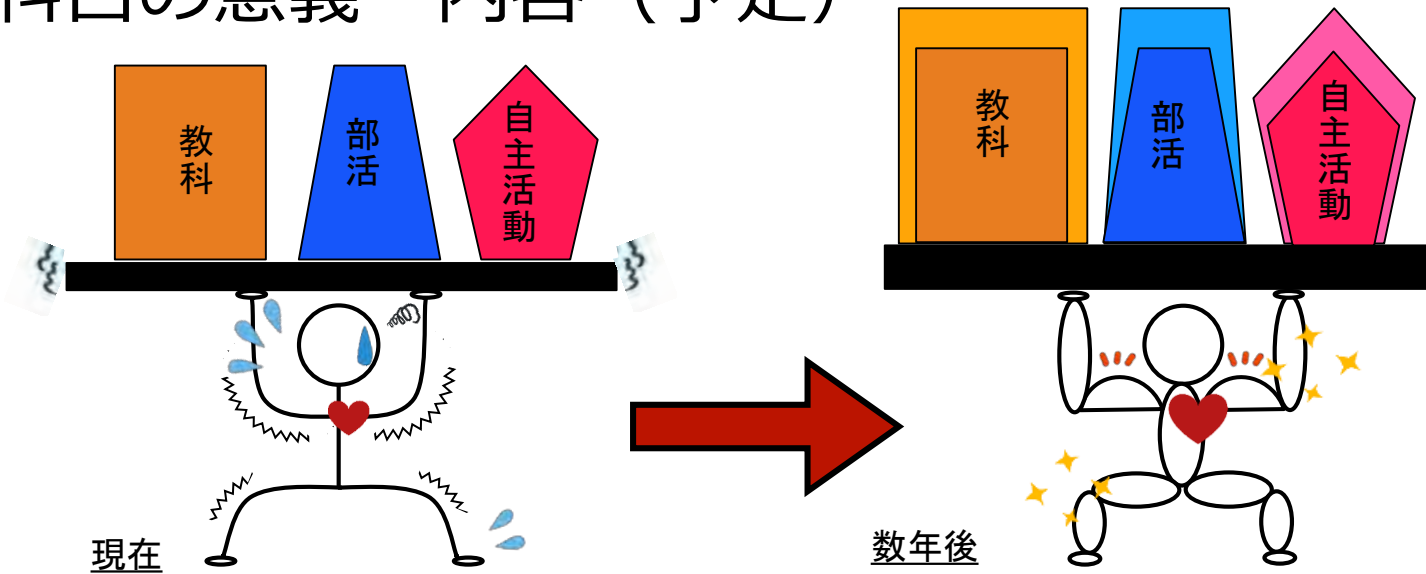


③2018年度 新カリキュラムスタート→今に至る

(文科省の研究開発指定校として総合的な探究の時間のモデル作り)

探究だけを
したいの
ではない

コア科目の意義・内容（予定）



中学コア

- コア道徳
「自分で問いを立て深く考える」
- 教科横断
「学びへの意欲・興味関心」
⇒自ら学びを深める力を育てる

高校1・2年コア

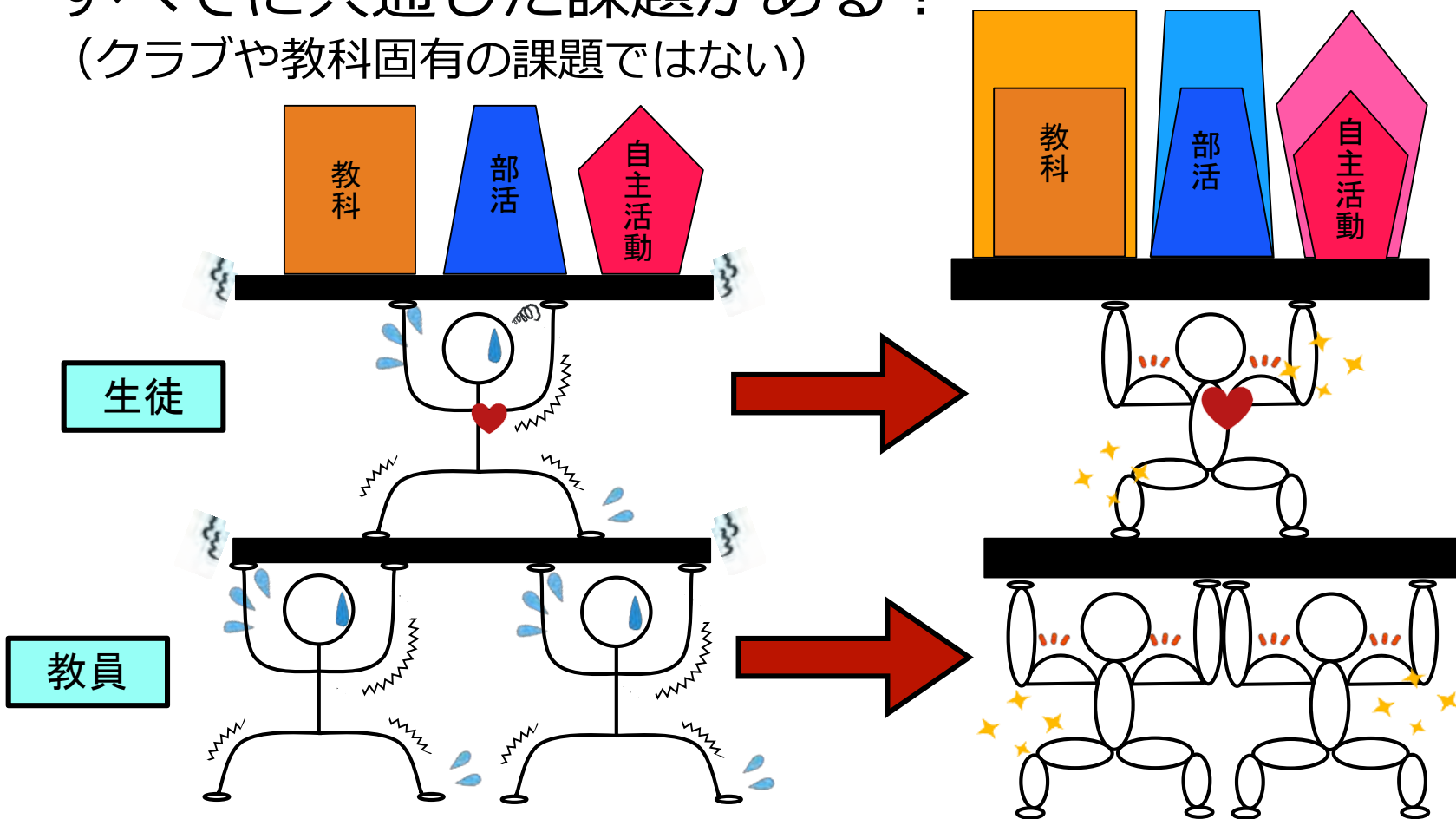
- 高1コア
「スタディースキル」「チーム作り」
「問を立てる力」「深い思考力」
⇒自分の生き方を深く考える
- 高2コア
「ソーシャルチェンジ」
「マイプロジェクト・テーマ設定」
「進路探求」
⇒課題研究に繋がるマインドを育てる

高校3年

- 課題研究
「マイプロジェクトの集大成」
「論文→発信へ」
⇒自ら生み出す力の育成・実現
- キャリア
「自らの進路を自ら切り開く」
「大学進学の意味意義」
⇒自らのキャリアを自ら切り開き、よりよい社会を築き上げる一員として輝けるマインド・スキルを身につける

すべてに共通した課題がある！

(クラブや教科固有の課題ではない)



教員：コアが教科を越えた教員の繋がりの中に
→教員集団の力量UP!!

この生徒実態であってる??
→全教員に調査してみよう!

教員アンケートからわかったこと

生徒の現状：

従順だが受け身

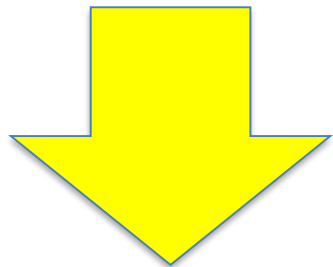
育てたい生徒像：

意欲（学ぶこと・人生そのもの）にあふれ、
自ら学び行動できる生徒

思っていることはみんな同じ！

教員アンケートからわかったこと

生徒の現状： 従順だが受け身



探究

お客さま

育てたい生徒像：

意欲（学ぶこと・人生そのもの）にあふれ、
自ら学び行動できる生徒

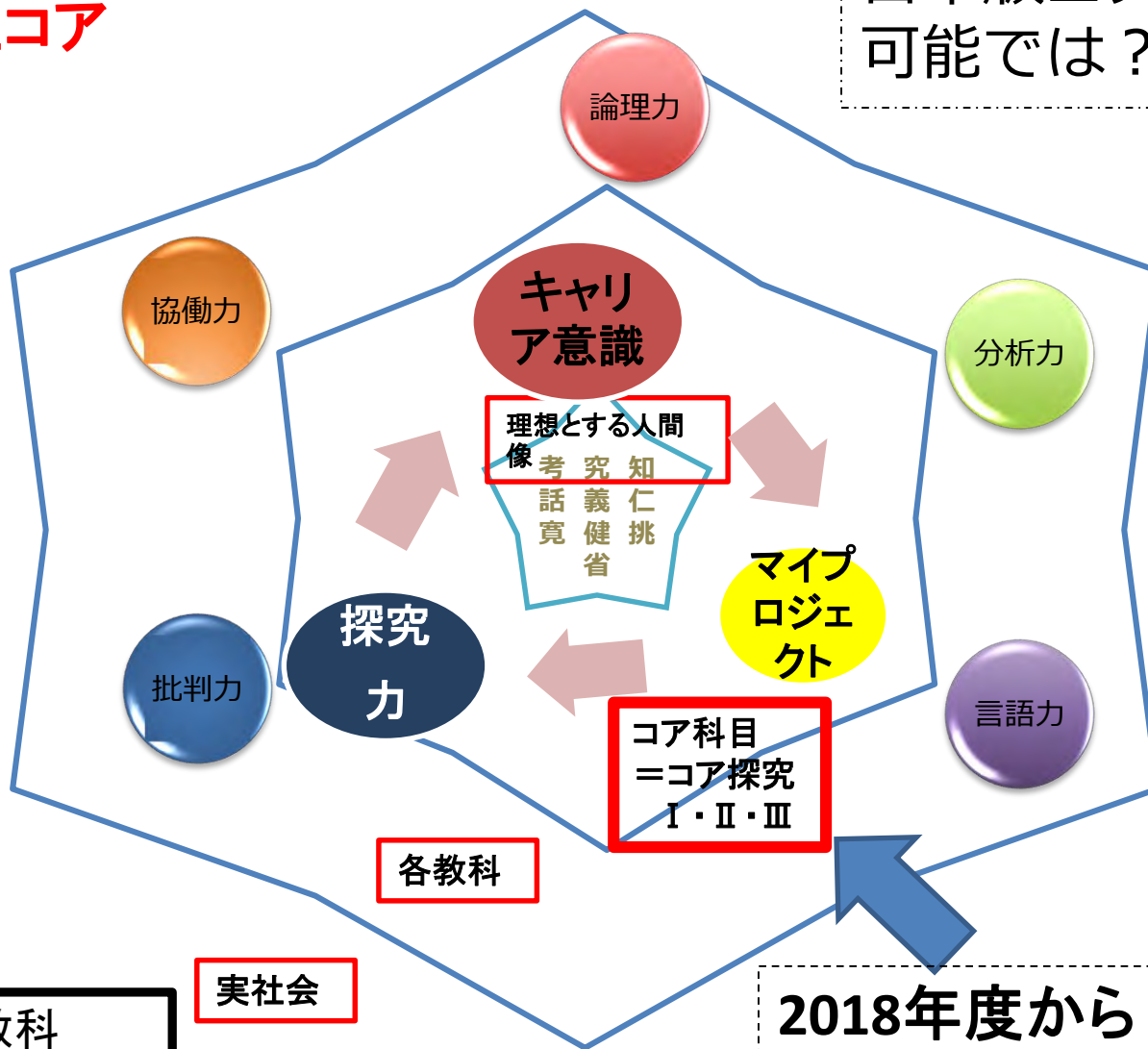
生産者

探究中心にお客様を生産者にする！

カリキュラムを デザインする

キャリアと探究 を柱にしたコア の育成

IBにはコアがある！
日本版コアは総合で
可能では??



コア科目と各教科
との関係・イメージ図

実社会

各教科

2018年度から
実施!!

カリキュラム構築の考え方

①伸ばしたい資質能力を焦点化

テーブルクロス理論

②探究サイクルを繰り返し徐々にレベルアップ

問いを立てることも練習が必要

③課題研究はゴールではない

本校にとって高3後期は重要

3年間で探究を6サイクル！

探究1

- 問いを立てることから学ぶ意味の探究

探究2

- 学びや経験を自分の未来とつなぐ

探究3

- 自らが解決したい社会課題の設定

探究4

- 自分の探究テーマ・研究課題の設定

探究5

- 自らのキャリアと結びついた課題研究完成

探究6

- 課題研究の発信やプロジェクト化

1
年
生

- 学習スキル
- ソーシャルスキル
- チームビルディング
- キャリアデザイン
- リフレクション

2
年
生

- 社会課題解決 (PBL) × キャリア
- ISN国際協働
- 研究テーマ × キャリア
- テーマ設定

3
年
生

- 課題研究完成
- 課題研究発信
- 課題研究のプロジェクト化

今、思うこと

- ①ごく普通の教員集団で、放課後や週末はクラブで忙しい教員や、家庭の事情など働き方に制約のある教員が多いからこそ、汎用性のあるプログラムができつつある。
(無理をしすぎるプログラムは続かない)
- ②与えられた条件で仕事をするのがプロ。教員は成長する。大切なのはチーム。

**教員は集めるものではない！
一緒に成長するもの！！**

成果例①「生徒の変化」

将来の見通しが無い生徒が激減！

入学時



高1・1月



「将来の見通しが無い」

入学時**48%** (昨年度36%)

1月**27%** (昨年度52%)

コロナ過で動いた生徒たち！

＜生徒の行動例＞

- * 自分で計画を立て、授業以外で毎日5時間勉強
- * 2か月で376時間と猛烈に勉強
- * 毎朝ランニングを20～30分続けました。早寝早起きを続けられました。
- * 美味しいラーメン作り企画。動物の骨や乾物、香味野菜などからスープを取り自分でタレも具材も作った。
- * 毎日夜まで母が仕事であるため、家事全般を自分が担当。
少しでも夜まで仕事の母を楽にさせてあげられるように動いた
- * GCが募集したオンライン模擬裁判への参加。検察チームのリーダーとなり初めて人をまとめる経験
- * 中高吹奏楽部の部員を募りテレワーク演奏実施
- * 京丹後の活性化プロジェクトに向けた、ミーティング主催の準備
- * ガウンを50着作り、病院に寄付。日常を崩さない。
- * ISN国際会議開催のための会議参加と準備
- * 時間の使い方コンテストから(HPにもあり)

成果例①「生徒の変化」

本校生徒がOECD主催のオンライン ワークショップに参加！

～2030年以降の教育についておよそ130か国のメンバーで
議論しました～



The OECD Learning Compass 2030 in the Covid19 context

- We are being tested
 - can we ensure **well-being** not just of ourselves but also of others and the planet?
 - Can we use the **transformative competencies 2030**, e.g. reconciling tensions, dilemmas, and trade-offs, taking responsibility, and creating new solutions.
 - Can we ensure **student agency** (e.g. motivation, setting goals and monitoring one's progress, growth-mindset) as well as **co-agency** (e.g. collaborative learning with peers) during remote learning.



Zoom meeting screenshot showing a slide with 'Thank You' in multiple languages:

- 감사합니다 (Korean)
- Natick
- Danke (German)
- Ευχαριστιες (Greek)
- Dalu
- Obrigado
- Thank You (English)
- Köszönöm (Hungarian)
- Tack (Swedish)
- Gracias (Spanish)
- Спасибо (Russian)
- Dank (Dutch)
- Seeé
- 谢谢 (Chinese)
- Merci (French)
- ありがとう (Japanese)

Peeter Mehisto
peeter@mehisto.eu
University College London Institute of Education

もつとも
大きな成果は
教員の成長！

コアに取り組む中でカリマネの重要性に気づく！

教員の総括から (高2 終わり)

- 1単位の授業の中だけでコアで目標としていることを伝えるのは難しいと思う。正直、**授業だけで身につけることへの限界**を感じた。
- コアでの学びが教科の学び全体に波及することを実感できると、もっとモチベーションが上がるのでは。逆に言うと、そもそも**学校全体で身につけさせたい学力についての共通認識**がなければ、場当たりの授業になってもったいない。
- コアが目指す力をコアのみで身に付けさせようということは、愚の骨頂。日々の生活、部活、授業、すべてにおいて「核」となるようなことをやっているのだとしたら、**コアで学んだことを自然と出せるような授業づくりなり、生徒への働きかけ**が必要となる

教科の取り組みとコア探究をつなぎ始める！

各教科の取り組み (一例)

- ・ 政治経済：コアの取り組みをブラッシュアップ→宇治市議会へ
- ・ 国語：論述課題のレポートをコア探究のものに
- ・ 英語：スピーチのテーマ探しでコアの手法を使う

若手教員から

稲垣桃子（いながきももこ）
立命館宇治中高 高3担任

地元（静岡県）の進学校にて、受験と模試と国公立合格率を上げるための「勉強」にいそしみ、探究の「た」の字も知らない生活を送る。学校の方針である「国公立大学への進学」が叶わず、「落ちこぼれ」として逃げるように京都の私立大学に進学。その後も、探究とは無縁の生活を送る。

- 2017年 立命館宇治高校にて教員生活をスタート。（高2担任）
「探究」という言葉を知る。→「絶対、関わるのやめよう。」
- 2018年 高1担任として、「コア探究Ⅰ」を担当。
決定した時、「完全に就職間違えた！」と思う。
→「あれ、やってみたら、意外と面白いじゃん？」
- 2019年 高2担任として、「コア探究Ⅱ」を担当。
→プチ反抗期でコア探究Ⅱ乗っ取りを目論む。
- 2020年 高3担任、高2授業担当として、
「国語の枠に収まらない国語の授業」を目指して試行錯誤中。



きっかけは「反抗期」

新カリで国語の必修単位が減る！



こっちのほう
がかっこいい
かも！



「環境が悪い」と
文句を言いつつ、文句しか言わず、
実質的には受け入れる。
(2単位でできることだけをやる)
カリキュラム委員だった酒井先生と
は口をきかない。
(ふてくされる。)

受け入れる振りをして、徹底的に反
抗する。使えるものを全部使ってた
ら「探究」が「国語」になっちゃ
いました！という既成事実を作る。
カリキュラム委員だった酒井先生を
踏台にする。

現在の授業実践

日本語 I × コア探究

コア探究IIで問立てした内容で、ミニ文章を作成。
その構成や体裁、論理性などを国語の論述課題として指導、評価。
国語で用いている文章作成シートをコアでも使用。



【テーマ】

「現状の自分の研究を文章にしてみよう！」

【ルール】

* 字数 800字以上1000字以内

* 必ず書かなければならない内容

・リサーチクエスチョン ・それを設定した理由

・仮説 ・そのように考えた根拠、先行研究 この順番で、(つまり、仮説シートを文章化する、ということ)

【評価ルーブリック】

文章構成	自分のリサーチクエスチョン、それを決めた理由、仮説、根拠、先行研究、「自分の考え」の論の構成になっている。	2
	自分のリサーチクエスチョン、それを決めた理由、仮説、根拠、先行研究、「自分の考え」の論の構成になっている。ほぼなっているが、不備がある。	1
	構成を意図していない。	0
論文体裁	段落構成や引用の仕方等、基本的な論文作成のルールが守れている。	2
	段落構成や引用の仕方等、基本的な論文作成のルールがほぼ守られているが、不備がいくつかある。	1
	段落構成や引用の仕方等、基本的な論文作成のルールが守れていない。2か所以上不備がある。	0
論理性	全体的に筋道の通った文章になっている。	2
	論理の根拠が一部ある。	1
	集論、変態し、半分以上引用。	0
正確さ	研究内容を知らない人が、1回読んではほぼ理解できるような、文章をわかりやすく書いている。	2
	研究内容を知らない人が、1回読んだだけではわからないが、2回読んだら理解できるような、文章をわかりやすく書いている。	1
	3回以上読まなければわからない、何度読んでもわからない。	0
先行研究	先行研究はインターネットだけでなく書籍からもとっている。	2
	先行研究はインターネットのみで調べている。	1
	先行研究がない。	0

現在の授業実践

【近現代レポートテーマ】

文学作品 × 学問



その文学作品を、
ある学問の視点に着目して見てみると...?
Ex. 『こころ』 × 経済学

【近現代レポート裏テーマ】

問を立てる

様々な視点で文学

作品を読み解く

【例】

「こころ」×社会福祉学



コア探究を担当して

2018年 春

本当にやりたくない。カリキュラムに存在している理由が分からない。逃げたい。就職間違えた…。そもそも、「国語」で採用されてるのに、なんでわけわからないものやらなきゃいけないの??



2019年 春

探究って、難しいけれど、生徒にとっても、教員にとってもやってみる価値はある。…頑張ってみようかな。



授業とは

探究に関わるまで

試験問題が解けるようにすること
与えられた問に対して答えが出せること

授業とは

腹をくくってから

視野を育てること

- ・ 1つの物事を様々な視点から見ること
- ・ 「現代」を見つめる切り口を増やすこと



自分なりの問を立て、それを解決していく経験をする事

そのためのコンテンツが教科であり、
コンテンツと「今」をつなぐ糊が探究なのでは？

カリキュラムを作るために必要なこと？（私論）

心技体（人？）

心：思い、

技：教材開発力、文章を書く力

体（人）：仲間

意識すべき動き？：縦と横、地味と派手

縦と横：管理職と現場

地味と派手：日常のカリキュラムと非日常の場

(最後に)この間見えてきた仮説

①振り返りは大切！

(1年1月→1年2月 学びに向かう生徒の姿の数字向上)

②教員は2年担当すると自然とカリマネの重要性に気づく？

③キャリア教育と探究は文科省通りの分け方では難しい。

(特活と総合の島争いではうまくいかない)

④取り組む上での課題は、生徒の個人差という古くて新しい課題と教員のマインドセット。

⑤カリキュラムのコアとは次の3つ？

i) アカデミックな「コア」

ii) 生き方・マインドとしての「コア」

iii) 教科の壁を越えた教員が育つ「コア」